



私のひとりごと

「これ以下の話は無い」

年末に次々と寒波が押し寄せ、日本列島は寒波にスッポリと包まれた。例年だと、雪が降り始めてから慌ててタイヤ交換するのであるが、今年は12月の始めに早々と済ませてしまった。この寒波は、そんな珍しい事をしたせいか？と内心気にしている。

話は変わるが二ヶ月程前、映画「男はつらいよ」でフーテンの寅さん役を演じた渥美清さんの付き人、皆川一さんの話を聞いた。皆川さんは付き人から舞台演出の仕事を経て、舞台製作会社を設立するが、失敗し莫大な借金を抱える。自殺未遂2回、自己破産を経験。その後、塗装業の営業でトップセールスとして成功する。現在は経営コンサルタントとして多忙な日々を過ごされている一方、過去の経験を生かし、自殺予防などの講演も行っている。自殺と言えば一見他人事のように思うが、日本全国で一日80人以上の方が、自らの命を絶たれている現実から思えば他人事とも思えない。私も二年ほど前、自殺未遂を繰り返した女性と話す機会を得た。29歳の看護師でとても美人である。彼女は、「もし、その当時“ガンバレ”と言われていたら私は本当に死んでいたと思う」と語ってくれた。その時掛けられた言葉は「あなたは、よく頑張っているね。」だった。苦しんでいる自分の存在を認めてくれた言葉であり、彼女はその言葉で心を開き立ち上がった。よく、「死ぬ気になったら何でも出来る」と言われるが、生きる気のない人にとっては何の慰めにもならず、これほ



ど人の心を見殺した言葉はない。私も今だから言える経験がある……。ずいぶん昔の話になるが、精神的に行き詰まり、万事休す！いわゆる八方塞がりであった。自分に限ってとっていたが、人間弱いもので、追いつめられると死を意識する。まず「死に方」で悩んだ。首を吊れば簡単だが、見つかった時に恰好が悪い。海に飛び込む事も考えたが時期が冬場で冷たく、第一、私は泳ぎが得意でない。それでは車で谷底にダイブも考えたが、万一途中の木に引っ掛かり助かれば車がオシャカになった分、損をする。それではと、いつそやの殺人事件のようにトリカブトで！

と考えた。トリカブトが群生している場所は知っていたが調理方法は知らない。量を間違え、後遺症だけが残っては最悪だ。山深い所で…とも考えたが、一生見つからなかったらあまりにも淋しすぎる。など等、方法を考えるだけで精根尽き果ててしまった。笑い話のようであるが、本人はすごく真面目である。そんなある日の朝、山あいから日が昇り全てを照らし出した。こんな私でも分け隔てなくお日様が当たるのかと感激をし、涙が止まらなかった。私を救ったのはお日様の暖かさである。全国に同業者でライバルでもある友人が何人か居る。そのほとんどが、どん底を経験し這い上がっている。その友人達と話し合う時にマイナスな話は一切出さない。業績が良いも悪いも全ては自分のせいで、ましてや景気のせいにする人は一人もいない。業績を伸ばすには寝る間も惜しみ、知恵と汗を絞り出すだけの事。どん底を経験した者だけが思う単純な答えなのだ。お陰様で友人達全員も景気に左右されず右肩上がりで業績を伸ばしている。

正月から自殺する話で縁起が悪いと思われるかもしれないが、これ以下の話は無いのである……。言うことは……。今年起こる様々な出来事は、全てこれ以上の出来事で喜べる事ばかりなのである。どうやら今年も飛躍するしか道はなさそうである(笑)。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき……、

あーがしう
ごぞいました!!

